

アカデミックな学び、国際ボランティアなど、高校生の短期留学を強力バックアップ！

「トビタテ！ 留学 JAPAN」 日本代表プログラム高校生コース」募集開始

グローバル化に対応する人材の育成を強化するため、国は海外留学の促進に取り組んでいる。その一環として、2013年、企業や大学と連携して始めたのが「トビタテ！ 留学 JAPAN」(図1)だ。これまで大学生の海外留学を支援してきたが、2015年度は、高校生の短期留学支援を行うことが決定した。その募集に先立ち、文部科学省初等中等教育局の河村裕美視学官に事業内容について聞いた。

自己形成が図られる高校時代に
多様な価値観に触れてほしい

日本には現在、約330万人の高校生がいますが、期間を問わず、何らかの形で留学をしているのは、そのうちの1%、約3万3000人に過ぎません。これを、2020年までに2%に引き上げたいというのが政府の目標です。

文部科学省の調査(*)では、将来を含め、留学を希望する高校生は42・3%いて、留学への関心やニーズは高くあります。にもかかわらず、実際には1%の高校生しか留学をし

ていないのは、経済的問題、大学進

学などの進路面の心配、海外で生活する不安、情報の不足など、いろいろなハードルがあるからと捉え、国

は様々な支援を行っています。『VIEW21』の13年度2月号でも紹介している通り、14年度は「社会総掛かりで行う高校生留学促進事業」として、長期・短期の留学経費の支援、

留学経験者や海外勤務経験者などの体験講話、留学フェアの開催などを行い、高校生の留学促進に努めています。

本事業の最大の特徴は、国費としては初めて、短期留学の支援を行っていることです。原則として2週間



文部科学省
初等中等教育局 視学官
河村裕美
かわむら・ひろみ

教育助成局財務課、初等中等教育課、特別支援教育課、JSPS国際事業部、大臣官房国際課等を経て現職。SGH、高校生留学支援事業、留学キャンベーン「トビタテ！ 留学 JAPAN」を立ち上げ、事業設計に携わる。

以上1年未満の短期留学に、1人10万円、計1300人を支援しました。短期留学では成果が十分に得られないという意見もありますが、留学に意味があったのか、なかったの

かは、本人が将来、判断するものです。国は、短期留学も高校生にとって、十分に意味があるものと考え、支援しています。

日本は良くも悪くも、単一的な価

*文部科学省「高等学校等における国際交流等の状況について」(2011年度)

● **概要** 意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成するために、留学イベントや留学に関するキャリアカフェなどを行うとともに、実際に大学生や高校生の留学を支援する「トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム」を実施する。国だけでなく、社会総掛かりで取り組むことでより大きな効果が得られるものと考え、各分野で活躍する方々や企業からの支援や寄附などを得て、官民協働で「グローバル人材育成コミュニティ」を形成し、将来世界で活躍できるグローバル人材を育成する。

● **支援企業・団体数** 94社・団体(2014年10月現在)

● **第1期派遣留学生(大学生)の選考状況** 申請1,700人(221校)→採用323人(106校)

* 「トビタテ！ 留学 JAPAN」ウェブサイトより抜粋

価値観を持ち、多様な文化に触れる機会があまりありません。高校時代の15〜18歳は自己形成が図られる時期であり、大学生よりもまだ意識や価値観が柔軟です。そうした時期に、短期間であつても外国で生活し、各

国の同世代や多様な人たちに触れて、自己形成の一助にしてほしいという思いがあります。

海外での生活体験で学べる5つの力

では、海外に出て何が学べるのでしょうか。私は5つの力を挙げたいと思います。

1つめは、課題発見力です。外国人と話すことで、日本の特徴が分かり、外国と日本の違いを見て取り、そして、問題点に気付くはず。日本を外から見られる環境に身を置くことで、客観的なものの見方を鍛える経験が出来ます。

2つめは、コミュニケーション能力です。自分とはバックグラウンドが全く違う人に対して、どのように物事を伝えていくか、そうした力が付くということです。短期間の留学で語学力が身に付くとは考えていませんが、自分を知っている人が周りに誰もいない環境で、人間関係を築いていくたくましさがある程度、身に付けられることでしょう。

3つめは、多様な価値観を受容す

る力です。人と違うことが当然という環境にいると、何かが違っていても気にならなくなります。そうした経験は、日本にいるだけでは出来ません。

4つめは、自己肯定感の醸成です。あまりにも多様な価値観の中にと、自分で自分を肯定しないと生きていけません。自分は日本人であり、日本人としての存在感を発揮することで、自己肯定感を抱くことにもなるでしょう。

5つめは、自己の価値観の形成です。外国に行けば日本人として見られ、周りから「あなたはどいう思うの？」と聞かれる場面の連続です。自分で考え、判断せざるを得なくなります。そうした経験の積み重ねは、友だちや保護者、教師が良いと言ったもの、ネットや雑誌に良いと書かれているものが良いという価値観から脱し、自分の軸を築きつけになることでしょう。

高校時代に短期留学をしておけば、将来の長期留学へのプレ体験にもなります。大学生で留学する際、生活習慣がよく分らず、慣れるまでに時間が掛かるということがよくある

ようです。しかし、高校時代に留学を経験しておけば、外国で生活するとはどういふことなのか分かってきます。留学生生活をスムーズに始めることが出来るのです。

スポーツ、芸術、工業、農業等 高校生の様々な意欲を支援

このように、高校生の短期留学には様々な利点があるという考えから、「トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース(以下、本コース)」を始めます。14日以上3か月以内(1か月以上を推奨)の短期留学に対して、奨学金を支給し、渡航費や授業料を援助する事業です。初年度の15年度は、3000人の支援を予定しています。

「トビタテ！ 留学 JAPAN」は、94の企業・団体から支援を受けて運営しています(図1)。本コースの内容も、企業の方々に話を聞き、①アカデミック分野、②スポーツ・芸術分野、③プロフェッショナル分野(専門的な職業)、④国際ボランティア分野と、テーマ別の4つのコースを設けました(P.52図2)。

①アカデミック分野は、サマースクールやサイエンスプログラムなど、教科学習に関連する留学を想定しています。海外の同世代と一緒に学び、切磋琢磨^{せつさくたくま}していく。好奇心や探究心が強い生徒の応募を期待しています。

②③④はこれまでにない、テーマ別の留学を支援するコースとなります。

②スポーツ・芸術分野は、スポーツや芸術の分野での留学となります。養成プログラムへの参加、世界大会やコンクールの出場も支援します。このコースで求めたいのは、留学先でスポーツ・芸術だけを学ぶのではなく、現地の高校生や地域の人たちと交流する場を設けることです。専門性の追究だけでなく、海外での日常生活も経験してほしいと思います。

③プロフェッショナル分野は、専門的な職業に就きたいという高校生の留学を奨励するものです。例えば、工業や農業などの専門高校の生徒が、国際インターンシップや海外の専門学校に通うことなどを想定しています。今、工場の拠点を海外に移す企業が増えています。日本の企業に就職したとしても、工場長などとして

海外に赴任するケースはよくあります。将来の幹部候補として、外国人に会社や自分の考えなどをどうやって伝えればよいかを訓練しておくためにも、高校時代から海外経験が必要だという企業の声を反映させたコースでもあります。

④国際ボランティア分野は、現地でのボランティア活動やNPO・NGOでの活動に対する支援です。学問に関する学習だけでなく、社会貢献活動を通じた学びにも期待しています。

このように、支援対象は学術的な留学ばかりではありません。ですから、選考・審査では、留学計画や本人の意欲・資質を重視したいと思います。語学力や学校の成績に関して基準は設けず、提出いただく成績表などは参考程度にする予定です。どんどん応募してほしいと思います。

自己の軸を築くためにも 留学体験は重要

留学したい第一の理由として挙げるのは「語学力を身に付けたい」ですが、一方で、留学しない理由には「語

学力がないから」がよく挙げられます。確かに、短期留学では語学力はあまり上がらないでしょう。しかし、どんなに英語力がある生徒でも、英語が通じないという壁に必ずぶつかります。何とか伝えたいという気持ち

が、語学力を伸ばす、コミュニケーション能力を伸ばす最も大きな動機付けになるのです。留学で語学力が付くのではなく、留学で学習意欲が高まり、帰国後の学習で語学力が付くのです。

留学を支援した生徒が全員、グローバル人材になるとは考えていません。たとえ、留学がうまくいかず、外国にはもう二度と行きたくないと思ったとしても、それも自分を知る経験の1つとなります。どんな結果であれ、留学が自己形成の一端を担えればと思います。留学によって、

先ほどお話しした5つの力を身に付け、自分がしたいこと、自分の軸がはっきりする。そうなれば、結果がどうあっても自分が選んだ道に納得できるはずです。留学経験は、自己の軸を高校時代に築きつけかけとなる

図2 留学コースと対象とする人物

分野	テーマ	対象とする人物	人数
① アカデミック 分野	世界各国の生徒・学生たちとの切磋琢磨。 例:サマースクール、サイエンスプログラム	知的好奇心が強い生徒。学問分野において秀でた成績を残す可能性のある生徒。	150人
② スポーツ・芸術 分野	世界のトップ指導者に指導を受けたり、世界トップレベルの同世代アスリート、アーティストとの切磋琢磨。 例:トレーニングセンター、国際合宿、各種世界大会・コンクール	上昇志向が強い生徒。体育、芸術活動で秀でた成績を残す可能性のある生徒。	50人
③ プロフェッショナル 分野	世界最先端の取り組み理解や、技術者などの専門家との切磋琢磨。 例:観光、IT、調理、機械、国際インターンシップ、弟子入り、職業訓練	専門的な職業志向の生徒。 *主として専門高校(商業、工業など)、高専(1~3年次)、高等専修学校などの在籍者。	50人
④ 国際ボランティア 分野	グローバルに共通する社会課題の調査活動。 例:現地の生徒・NPO/NGOとの交流を通じて、課題解決に向けた取り組みを体感する	社会貢献活動へ興味関心が強い生徒。	50人

「トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」募集概要

●プログラムの特徴

- 「世界に挑戦」「専門的な職業」「社会貢献」等を焦点にした留学を支援
- 学校教育活動の一環として認めた留学計画を支援
- 社会が求める人材像を反映した審査
- 留学中の支援だけでなく、事前・事後の研修、留学後の高校生ネットワークの構築、大学生コミュニティとの連携

●申請対象となる留学コースと2015年度支援予定人数 *詳細は図2参照

- ①アカデミック分野 150人 ②スポーツ・芸術分野 50人
- ③プロフェッショナル分野(専門的な職業) 50人 ④国際ボランティア分野 50人

●主な支援の内容

- 奨学金:月8~14万円(留学先によって異なる)
*14日以上28日未満の場合は4~7万円
- 渡航費:10万円(アジア)または20万円(アジア以外)
- 授業料:30万円を上限として支給

●留学計画の申請要件

- 2015年6月下旬~2016年3月下旬までに開始される留学計画
- 留学期間が14日以上3か月以内(1か月以上を推奨)
- 留学先に受入機関が存在する計画
- 在籍校が、教育活動の一環として認める計画

●派遣留学生の要件

- 日本国籍を有する生徒または日本への永住が許可されている生徒
- 在籍校で、正規生として在籍する生徒

●申請方法・応募書類

- 生徒が主体的に作成した計画、または生徒の留学に対する目的や考えが含まれた計画を、学校を通じて「独立行政法人日本学生支援機構」に申請
- 留学計画、エッセイ(「自己PR」「留学の目的・期待成果」)、学校長の推薦状、成績表(学業、入賞歴)

●審査の観点・方法

- 企業関係者を含む有識者による審査
- 留学計画の審査
- 応募者の資質審査 例:実績評価、能力評価、意欲の高さ評価、社会貢献志向性評価

●スケジュール

- 公募期間:2015年1月上旬頃~3月上旬頃
- 選考期間:2015年3月上旬頃~5月上旬頃
1次(書類):3月上旬頃~4月上旬頃 2次(面接):4月上旬頃~5月上旬頃
- 採否決定:2015年5月中旬頃
- 事前研修:2015年6月上旬頃

*プログラムの内容は全て2014年11月時点のものです(内容は変更される場合があります)。

詳細は専用のウェブサイトでご覧ください。
応募フォームも
右記サイトにあります。



<http://www.tobitate.mext.go.jp/hs>

しょう。
もちろん、その留学によって、大
学生になったら長期留学をしたい、
将来は海外で活躍したいと思っても
られれば、それがベストだと思いま
す。しかし、何事も経験しないと分
かりません。支援した高校生のうち
1人でもよいので、国際社会で活躍

する人材となってくればと考えて
います。
高校の先生方には、生徒の留学し
たいという意欲を後押ししていただ
ければと思います。「留学したいけれ
ど、自分には無理」という生徒を勇
気付け、一步を踏み出させてほしい
のです。また、大学生は自分の意志

で留学しやすいと思いますが、高校
生は行きたいと思っても、保護者の
許可がなければ行くことが出来ませ
ん。保護者の理解を得ることに協
力していただきたいと思っています。
短期間でもたくさん刺激を受け、
日本に在るだけでは出来ない経験
をし、学ぶ意欲を高めてほしい。そして、

帰国後は自分が留学で得たことを友
だちや家族などに伝える。「私は留学
してすごく良かった。みんなも行こ
うよ」、そうした留学の輪が広がるよ
うなプログラムにしたいと思っています。
意欲ある高校生の皆さんの応募をお
待ちしています!